議事概要

会議名	第４回　森町総合計画審議会
日　時	令和８年 10 月１日(木)　15:00～17:10
場　所	森町町民生活センター　２階集会室
出席者	町長、副町長、審議会委員１７名（欠席委員３名）、事務局
議　事	１　開会 ２　町長あいさつ ３　議事 (1) 第 10 次森町総合計画の策定状況について (2) 第 10 次森町総合計画前期基本計画素案について (3) 今後の策定スケジュール（案）について ４　報告事項 (1) 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金（令和７年度）の充当事業について ５　その他 ６　閉会

議事要旨

１　開会

２　町長あいさつ

３　議事

(1) 第 10 次森町総合計画の策定状況について
(2) 第 10 次森町総合計画前期基本計画素案について
(3) 今後の策定スケジュール（案）について
・議事(1)～(3)について事務局より説明

（質疑）

会　長：　前期基本計画として、６つの柱、目指す姿、主な取組内容を示している。
本日の意見は、次回の計画案に反映しやすくなるので、積極的に意見をいただきたい。
計画案に記載されている内容に限定せず、多少視点が異なる内容でも意見をお願いしたい。

副会長：　基本の柱５の上下水道に関する記載について、今年３月に「下水道法等の一部を改正する法律案」が閣議決定された。今回の改正は、下水道事業のあり方に関わる大きな転換だと感じる。これまでのように下水道への接続を前提として整備を進めるだけではなく、地域の実情に応じて下水道と合併浄化槽を選択していく方向性が出されたと理解している。森町の下水道接続率は 60%弱だったと思う。これまで町では、接続率促進に向けた PR を行ってきたが、国の方向性が変わりつつある中で、今後の下水道事業のあり方についても検討が必要ではないかと感じている。例えば、管路が整備されていても、地域の実情によっては合併浄化槽による処理を選択するという考え方もあり得ると思う。そのため、総合計画の記載についても、国の新たな方向性を踏まえた表現にした方がよいのではないか。

事務局：　事務局から担当課へ確認させていただく。

副会長：　町として、下水道の接続を進めていく方向性に受け取れるため、改めて検討いただきたい。人口減少を踏まえた今後の下水道のあり方として、各地域の実情に応じて考えていくという方向になっている。それは「森町は森町の実情に合ったやり方で進めていけばよい」という考え方だと思う。南伊豆町では、真っ先に見直しを実施した。それぞれの地域が状況に応じて選択できるということだと思う。

委　員：　私は森町と磐田市で 10 年以上書道教室をやっている。その中で、10 年前のこどもたちと比べて、今のこどもたちの読み書きの力や学力が低下していると感じる。これはタブレットの影響や動画を中心に情報を得る機会が増えていることも関係していると思う。

書道教室では、字を書く前に「まず読んでみて」と声を掛けているが、小学６年生が２年生で習う漢字を読めない、書き順が乱れているなど、基礎的な学習が十分に身に付いていないのではないかと、強い危機感を感じている。タブレットは便利なものだが、基礎的な知識や学習習慣がしっかり身についた上で活用するものであり、小学校低学年から当たり前のように使うことについては、教育上どうなのだろうかと思う。

一方で、小中学校は児童生徒数の減少が進んでいる。例えば 1 クラス 10 人程度でより手厚い教育ができれば、「森町に行けば頭が良くなる」と思ってもらえて、人が呼び込めるのではないか。空き教室もあるため、先生やこどもたちを見守る大人を増やし、教育をより充実させていただきたいと思う。タブレットや動画視聴を止めることは難しいと思うので、町としては学校教育を充実させることではないかと感じる。こどもたちの読み書きの力については、本当に心配している。

もう一つ公園について、先ほど周智高校跡地に公園を整備するという説明があった。私の家は大門公園の近くにあり、毎日公園の様子を見ているが、夏は暑さが厳しく、公園に人がほとんどいない。また、草が伸び放題になっていることも多く、保育園のこどもたちが散歩で来ても、草が多いので遊ばずに帰っていくこともある。維持管理が十分にできないのであれば、新しい公園を整備することは本当に必要なのかという思いがある。シルバー人材センターの人が一生懸命草刈りをしているが、追いつかない状況。暑さも相まって利用者が少ない中、公園整備の意義について考える必要があると感じる。

こどもたちの夏休みの過ごし方についても意見がある。夏は猛暑のため外で遊ばないよう指導されており、川遊びも危険。町営プールはなく、学校のプールも開放されていない。そのため、こどもたちがどこで遊べばよいのか分からない状況になっている。先日、新しい公園についてのアンケートで、「どんな遊具が欲しいか」という質問がこどもたちにあり、「Wi-Fi を付けてほしい」と書いたとのこと。公園に行っても動画を見て過ごす時代になっていることから、こどもたちの居場所が必要だと思っている。中学生も部活動の地域移行が進み、暑さの影響で活動が中止になることも多くなっている。過ごす場所がない状態が顕著に最近は出ていると思う。

そこで提案ですが、体育館やアリーナにエアコンをつけていただきたい。地震や水害時、避難所にエアコンがないと、これからどうしようもない。そこにこどもたちの遊び場、居場所も作っていただきたい。今は涼しい場所でなければ過ごすことが難しい

時代であり、これから10年先を考えると、さらに暑さが厳しくなる可能性もある。こどもたちが過ごしやすい森町になれば、人も集まってくるのではないか。遊び場は公園ではなくて、涼しく居やすい場所、こどもたちが集まれる場所、例えば、アリーナを開放して、「この日は自由に遊んで良い」といったようにして、こどもたちが過ごしやすい森町にしてほしい。

会　長：　その他提案や意見をいただければと思う。提案や意見は、必ずしも全てが計画に反映されるというわけではなく、計画として位置付けるものと、事業の実施段階で対応していくものがある。先ほどのエアコンの話は、必ずしも計画に記載する内容ではないかもしれないが、実施レベルで検討していくべき内容もあるため、多くの意見をいただければと思う。

委　員：　資料１「AIを活用したオンラインワークショップ」の職員対象、町民対象の意見について、非常に先進的な意見が含まれていると感じているが、こうした意見が計画に十分反映されていない印象を感じる。先ほど、教育を重視しなければいけない話があったが、そのとおりだと思う。教育は町によって特徴を出せるものであり、例えば静岡市ではインターナショナルスクールのような教育を市として進めていく構想もあると伺っている。特徴ある教育を打ち出すことで、「森町で子育てをしたい」、「森町で育ったから戻ってきたい」といった声が増えるのではないか。
その中で、基本の柱２　取組分野①の取組「魅力ある教育環境づくり」の項目について、これまで年間120人程度生まれていたこどもが、ここ数年60人程度になっている。教育のあり方については、幼稚園だけでなく、小学校や中学校も含めて、今後8年から12年後を見据えた議論が必要と考える。学校は教育の場だけでなく、地域の拠点としての機能も果たしている。そのため、仮に学校を統合する場合は、通学方法の課題も出てくる。地域では「病院へ行く足がない」「買い物へ行く足がない」「通うための足がない」といった声もあるため、そうした課題も含めて、公共交通をどうしていくのかを一体的に考える必要があり、幅広い視点が必要になってくると思う。この教育環境づくりを起点として、もう少し広い視点で議論していく項目を設けていただければ。森町議会の一般質問の答弁を踏まえて、内容を反映していただければと思う。

委　員：　私は森町北部の山間部に住んでいるため、山間部の住民視点から話をしたい。
農業や林業の振興については計画に記載されているが、10年後の三倉地区や天方地区の姿を想像すると、間違いなく人口減少が進み、場所によっては町内会の運営が難しくなっているのではないかと思う。そうした中で、山間部のコミュニティに対して、もう少し記載していただきたい。例えば、国でもコンパクトシティやスマートシティといった考え方が進められており、効率性を重視して、まちの中心部にインフラを集約し、そこに住んでもらう方が良いという方向性がある。しかし、山に生まれ、山で育った人たちには、その地域を守っていきたいという思いがある。今、山間部の住民が特に心配しているのは、災害時に孤立集落となる可能性。基本の柱５の取組分野④地域防災・安全の中で、強いて言えば２つ目の「河川等の適切な維持管理及び浸水対策の推進」が近いが、項目としては少し異なるとも思っている。災害時の孤立集落対

策や孤立の防止に向けた対応等について、盛り込んでいただけると良いと思う。

委　員：　基本の柱１の中で、幼稚園や保育所等の支援を充実させるということが書かれている。働くお母さんたちの話を聞くと、一番困るのはこどもが病気になった時の保育だとよく聞く。働く側も働きたいがどうしても仕事を休まなければならない状況になり、企業側も、その間働いてもらえなくなることで影響が出てしまう。そのため、病児保育についても触れていただけると、保育園・幼稚園のあり方という面で充実してくるのではないかと思う。

次に、基本の柱３の中で、「伝統や文化を次世代へ継承するため」という記載があるが、伝統や文化というと、どうしてもハード面がイメージされやすい。森町には独特の食文化やお茶等もあり、食文化のようなソフト面についても記載できればと思う。

また、農業委員会の会長として、農業の分野についても話をしたい。基本の柱４　取組分野①について、「担い手の育成」という表現はこれまでも長年使われてきた文言である。しかし、今後どのような施策を行うのか、どのような支援をしていくのかの点について、もう少し具体的な内容を記載していただきたい。

国全体がみどり戦略（みどりの食料システム戦略）の方向で農業施策を進めているため、町としても、その方向性を踏まえた内容を盛り込んでいただければ。例えば、「持続可能な農業」や「有機農業」といった視点は、里山の農業を守ることや、美しい景観を維持することにもつながる。この地域は農業振興地域でもあるため、守るべき農地を守りながら、それぞれの施策を充実させることができるのではないかと思う。

委　員：　私は森林組合役員で中山間地域に住んでいるが、荒廃農地が本当に増えていると感じる。今までの農業政策や制度だけでは守りきれない農地が増えていると思う。急傾斜地や狭小な農地など、条件の悪い場所を有効活用していくためには、これまでのやり方だけでは限界があると感じている。

また、これまでの制度の中では、規制が多いように感じる。デジタル化が進む中で、ソーラー発電の活用等も含め、農地に植える作物について単に規制するだけではなく、中山間地域の実情に合った農作物や土地利用のあり方についても見直していく必要があると思う。このまま放置しておくと、イノシシ等の鳥獣の住みかになってしまい、そうした状況は中山間地域だけでなく、平野部でも進んでいるように感じる。

林業についても同様。木材価格は、コロナ前と比べてもほとんど変わっていない。他の物価は上昇しているが、木材価格は大きく変わらない状況が続いており、林業を取り巻く環境は非常に厳しいものがある。どうすればよいのか明確な答えを持っていないが、中山間地域における第一次産業が非常に厳しい状況にあることは間違いないと思う。

人口についても、10 年後に町内会の戸数がどれだけ減るのかと考えると、大変心配になる。これまでは「限界集落」という言葉が使われていたが、今では「消滅集落」が現実的な課題になりつつあると感じる。今回の総合計画には多くの施策が盛り込まれており、記載されている内容が実現できれば本当に素晴らしいと思うが、一方で、実現は簡単ではないとも感じている。感想として述べさせていただいた。

委　員：　将来像である「つながりと愛着を持ち共に創る森町」は、非常にいい言葉だなと思った。今回、その将来像の中で実際にどのような施策を進めていくのかということだが、行政だけで何かをするというのは難しい状況になっていると思う。その意味で、「つながり」や「愛着」というのは重要なキーワードではないか。

本日参加している皆様含めて、地域でつながり、協力し合うということはできるのではないかと思う。公共交通では、現実的には運転手が不足していて、周りに頼らざるを得ない状況にある。例えば、町内企業や工場に協力していただき、輸送に関する仕組みを一緒に考える。場合によっては費用を出し合うことも考えられるのではないかと思う。

総合計画の中でどこまで書けるかは分からないが、「協力し合う」という視点があれば、単に「頑張ります」というだけでなく、より現実的な書き方もできるのではないかと思う。また、隣接市町や関係機関との連携についても、もう少し強く打ち出してもよいと思う。全てを行政単独でやるのは難しい時代になっているので、その点も重要だと感じています。

もう１つは、私は森町 CDO 補佐官という立場でもあるため、AI について意見させていただくが、新しいものを取り入れると、逆に使いこなせないということがある。先ほどのタブレットの話も、その一例ではないかと思う。本来であれば、タブレットを活用しつつも、手で書く等、学習方法はいろいろあると思うが、急速に導入が進んだことで、対応しきれていない面もあると感じている。一方で、AI については良い面も悪い面もあるが、その活用は無視できないものになっていると思う。

むしろ、早い段階で挑戦し、学んでいかないと、気付いた時には対応せざるを得ない状況になってしまう。今回、ｄX という言葉も盛り込んでいただいているが、実際には AI の活用によって、ここに書かれていない様々な分野にも大きな影響が出てくると思う。そのため、計画の中でも、少しチャレンジしていくような視点があってもよいのではないかと思う。

委　員：　私は孫がいて、観光協会の会長でもあるが、やはり教育は大事だと思う。こどもが育てやすい環境であれば、若い世代の夫婦も入ってきて、結果的に人口も増えていくのではないかと思う。

九州の図書館では、飲食可、おしゃべり可という取組がニュースで見た記憶がある。そのような少し極端な取組をやってよいのかなと思う。良い面と悪い面があるため、勉強したい人のための場所を分ける必要もある。ただ、そのような施設であればエアコンがあり、こどもたちにとって居場所になる。また、コミュニケーションが取れる場所にもなる。将来的にそんな町になったらいいなと感じている。

また、部活動については、昔は学校の先生が放課後や土日まで面倒を見てくれていたが、今はそういう時代ではなくなっている。森町として、こどもたちを運動面や文化面でどのように育てていくのかについて、もう少しはっきり示した方がよいのではないかと思う。そうすることで、「森町に住んでみようかな」と思ってもらえるのではないか。もう少し具体的に考えていただき、場合によっては国の方針と少し違う形であってもよいのではないかと思う。ｄX の「X」は変革であり、テレビ番組に取材されるような少し変わった取組を行い、注目を集めることがあっても良いと思う。

もう１つ、私は高齢の親族がおり、三倉地区へ時々行くが、空き家になっているため、鹿や猿が出没し、家の周辺に近づきにくい状態になっている。徐々に獣が民家の周辺まで入り込んできていることを実感しているため、その辺りの対策もできたらよいと思う。難しいことだが、そういった地域に移住してきた若い人たちが、畑を耕したり、お茶を栽培したり、米を作ったりしてくれたらよいと思う。

委　員：　計画全体の進め方について、現在記載されている内容は、概要として非常に適切な表現が並んでおり、向かうべき方向も概ねこのとおりであると考えている。しかし、肝心なのは、目指す姿を明確な北極星として位置付けることである。
前回も少し述べたが、「このような取組を実施したため、評価としては丸である」という判断になりがちである。しかし、結果として目指していた姿になっていないのであれば、何を見誤ったのか、社会情勢が変化したのか、それとも別の原因があったのかを検証しなければならない。今回は、前回の 10 年間の振り返りにおける反省点もあると思われるため、それを十分に反映した上で、次の 10 年計画を策定する必要がある。この 10 年間で何も変わっていないという結果になれば、同じ 10 年を繰り返すことになってしまう。重要なのは、目指す姿を明確に定め、そこに確実に到達するための取組方法はこれである、という表現につなげることだと思う。
まとめ方としては、今回配布された資料 2-1 のような形でよいのではないかと考えている。私たちが普段、物事を進める際の考え方でいえば、左側に現状を記載し、右側に目指す姿を記載する。そして、その間のギャップが課題となる。まず目指す姿を明確に定め、現状から目指す姿に向かうための手段には複数の選択肢があると思われるが、その中から最も適切な方法を選び、目指す姿に向かう。その最も適切な方法が、ここでいう取組として位置付けられていればよいと考えている。
また、「目指す姿」と記載されている内容の中に、姿ではなく手段となっているものがいくつかあるように感じられる。本当に実現したいことは何なのかという点がずれてしまうと、失敗を繰り返すことになってしまう。そのため、そうした視点で検証しながら、内容を精査してもらいたいと考えている。

委　員：　基本の柱 4 の企業誘致・雇用について、戦略的な企業誘致は非常に重要であると考えている。先日、静岡県知事が官民連携組織を設置し、用地供給を進めていくという話をされており、非常に重要な取組である。
ただし、私自身、企業立地に携わった経験から、外部から企業を呼び込むことも重要だが、既に立地し、事業を継続している企業を地域に留めることも非常に重要であると考えている。そのため、誘致だけでなく、企業の留置・定着という考え方が分かる用語や要素を盛り込んでいただきたい。
外部から企業を呼び込んでも、地域にとって重要な企業が他地域へ移転したり、事業を集約して撤退したりすれば、結果として差し引きゼロになってしまうため、企業の誘致と留置を両輪として進めていただきたい。また、その考え方が伝わる表現を盛り込んでいただきたい。
次に、基本の柱に記載されている「5 年後の目指す姿」の表現について、文末が全て「目指します」となっている点が気になる。例えば、「～のまち」で文を終えてもよ

いのではないか。基本の柱において大きな方向性を示しているのであれば、「目指します」という表現はなくても、より簡潔になるのではないかと考えている。
指標については、今後、基準値と目標値を設定するということでよいと思うが、それぞれの指標には定義があると考えられる。一見して分かるものもあれば、定義が分かりにくいものもあるため、その定義をどのように示すのかが気になる。用語解説や巻末資料等に記載するのであれば、ぜひ明示した方がよいと考える。
また、先ほども意見があったが、目指す姿の中に「維持していきます」や「～します」といった表現が含まれているものについては、目標というよりも取組内容を示しているように感じられる。そのため、目指す姿として適切な表現となるよう、文言について精査していただけるとありがたい。

委　員：　私は森町に居住しているわけではなく、町外から通いながら、商工会のテナントを借りて店舗を運営している。私の店舗には年間約 1 万 2 千人が来店しており、今年は町の人口を上回る約 1 万 7 千人の顧客に来店いただいている。来店者は町民よりも、観光に近い形で訪れる方が多いため、観光、交流、情報発信の分野について意見を述べる。
森町 PR キャラクターのコモコモについて、費用対効果が十分に見えない中で使い続ける意味がよく分からないと感じている。キャラクターは、その町のイメージを表す存在であると思うが、印象が曖昧で、個性が伝わりにくいように感じている。場合によっては、役割を終えてもよいのではないかと思う。
以前、維持費については、年間の使用料はそれほどかからないとの説明を受けた。しかし、著作権や使用許諾の関係から、町内事業者がコモコモを商品やパッケージに活用しようとした場合、使える仕組みになっていない。例えば、他の自治体では、キャラクターを比較的自由に活用できる例もあるが、コモコモについては、権利関係も含めて検討の余地があるように感じる。AR アプリ等も十分に活用されているようには見えない。キャラクターを作ること自体が目的ではなく、その先にどのように活用していくのかというビジョンが重要であると考える。
また、茶風詩についても意見がある。商業的な視点で見た場合、顧客からおすすめの場所を尋ねられても、自信を持って紹介できるかというと、まだ難しい部分がある。ロゴやデザイン等も含め、全体的な魅力の見せ方には改善の余地があると思う。
リノベーション計画については、既存の資源を生かして活用するという意味で、非常に素晴らしい取組である。一方で、それと併せてデザイン性も重要であり、森町は、全体的にデザイン性という視点が乏しいように感じているため、計画の中にもデザインやブランディングといった考え方を盛り込むことで、より魅力的なまちづくりにつながるのではないかと思う。

委　員　：私も森町商工会の人間として店舗の状況を見ているが、土日は、名古屋や京都など県外ナンバーの車が商工会の駐車場に多く来ている。来訪者から声をかけられることもあり、「名古屋から来た」「以前から店舗に来たいと思っていたが、ようやく来ることができた」といった話を聞く。商工会としても、委員の商売のセンスや経営手腕は

大変優れていると感じている。
森町商工会には長く関わっているが、会員数は 500 人を下回っている。３～４年前までは、すぐに回復できると思っていたが、会員の高齢化が進み、減少に歯止めがかからない。何とか支援して助け舟を出したいと考えても、個人で商売をしている方が高齢になると対応が難しい面がある。
そのような状況を踏まえると、委員は開業８年目であり、若い頃から商売を継続され、非常に限られた店舗スペースで成果を上げている。先ほど、年間約１万７千人の来店があるとの話があったが、町内でも有数の経営をされていると思う。
また、本日の内容とは直接関係ないが、私は小学生の孫がいる。私の時代は１学年 6 クラスだったが、孫の学年は１クラスと聞いている。「そういう時代か」と思っていたが、袋井市山梨地区の山名小学校は 4 クラスあると聞いた。山梨地区と森町との違いは分からないが、複数クラスがあり、多くのこどもたちと関わりながら育ってほしいという思いがある。森町商工会にも責任の一端はあると考えているが、森町でこどもの数が少なくなっている原因は何なのか、改めて考える必要がある。
本日、金融機関の委員が出席されている。経済的な側面など、山梨地区と森町との間に大きな差があるのか、御教示いただきたい。

委　員：　山名小学校でも、児童数自体は減少していると思うが、周辺で新たに住宅が多く建設されたことが大きいと思う。
先ほど、こどもの読み書きの話には衝撃を受けた。タブレットの導入によって効率化された部分など良い面もあるが、こどもたちが読み書きできなくなっているという話は、実際に自分のこどもを見ても感じる。
これについて、一体誰が責任を負うのかと思う。もちろん親の責任もあると考えるが、行政を含め、様々な主体が実施・導入した取組の成果を検証し、「このような結果であったため、次はこのように取り組む」という形で十分に発信していくことが必要である。その取組を繰り返していくことが非常に重要だと考える。
森町の小学生が少ないという話に直接つながるか分からないが、様々なことに取り組むことは素晴らしいことであり、今後も積極的に進めていただきたい。ただし、「実施した結果、どうであったのか」「その結果を踏まえ、次にどのように取り組むのか」といった点を、より積極的に発信していただければ、さらに活性化した町になると思う。

会　長：　同一市町村内であっても、人口が増加している地域と増加していない地域の違いは、住宅供給であり、具体的には、アパートや戸建て住宅の供給である。
小山町では、役場周辺で人口が最も減少したため、住宅供給に積極的に取り組んでいる。その際、近隣にスーパーマーケット等があるかなど、一定の利便性が確保されているかどうかも重要なポイントになる。

委　員：　先ほど、農業の担い手に関する話があったが、基本の柱４の農業「担い手の育成と生産性の向上」について、担い手の育成も重要だが、その前段として、担い手をつくるという視点も必要である。実際に、現在農業に従事している方の中には、後継者として担い手となる人がいないことが現状としてある。まず、その状況をどのように改善

していくのか考える必要がある。
また、先ほども話があったが、農業、工業、商業及び行政が協力しながら進めていくことが必要であり、農業に限らず、様々な分野に共通することである。現在、様々な立場の方が一堂に会している状況であり、ここでの議論は非常に重要なものになると思う。

委　員：　先ほど山間部の話があったが、私の地域は下飯田である。近年、山が荒れてきていると感じる。私の家でも、父の代まで農業を営んでいたが、茶畑は 10 年ほど前に廃止した。その後、茶畑が荒れてしまい、今後どのようにしていくのか考えているところである。
また、竹林が次第に広がっており、単に伐採するだけではなく、資源として有効活用できれば、山の環境も改善されるのではと考えている。山の管理は所有者の問題ではあるが、こうした課題もあると感じており、大きな課題だけでなく、身近な小さな課題も数多く存在するため、自身も学びながら取り組んでいきたい。

委　員：　人口減少は、森町にとって大きな課題であると感じる。私は、大学生、高校生及び小学生の子が３人いる。大学生の子は今年、関東圏へ進学したが、就職先については１年生の頃から考えており、当初は静岡県に戻り、自分のやりたいことをしたいと考えていた。しかし、最近になって、地元には働く場所が少ないのではないかと考え始め、どうすればよいか相談を受けることがある。このような、実際の大学生や高校生の悩みや考えをくみ取る場があるとよいと思う。森町からは定期的にアンケートが送られてきており、QR コード等から回答できるようになっているが、アンケートだけでなく、より率直な声を聞く機会を設けることが必要ではないかと思う。
また、三倉小学校は私の母校であるが、空き施設となった学校施設の活用方法についても考えていく必要がある。現在、周智高校跡地の活用等も話題となっているが、例えば教育に特化した取組を行うなど、特色のある施設にできればよいのではないかと思う。立地が遠くても、教育の質が高ければ通う人はいると思う。実際に、小規模教育が望ましいという理由で、三倉地区へ転入した方もいる。運営には困難が伴うかもしれないが、そのような取組を通じて、森町がさらに活性化していけばよいと考える。

会　長：　私から最後に、資料１の 11 ページに、「塩の道の活用も含め、自転車のまちとして 10 年で発展させたい」という趣旨の意見が記載されていた。塩の道、すなわち信州街道については、静岡県の誕生から 150 年となる節目に当たり、県道としての正式名称である信州街道も、その名称の制定から 150 年となる。
明治 12 年には、森方面の茶をアメリカへ輸出するため、県が道路整備の予算を計上した。その際、予算が少なすぎるとして、県議会で増額修正された経緯がある。相良から清水港へ運び、清水港から横浜へ輸送するルートにおいて、森町も重要な役割を果たしてきた。森町の先人たちも、こうした歴史の中で商いを営んできた。
総合計画の内容については、多くの意見の中で、非常に重要であると感じたのは、計画の進め方についてである。次回は計画の進め方が示されると思うが、それぞれの分

野ごとに取組が記載されている一方で、分野を超えた連携や、役場だけでは実施できない取組をどのように進めていくのかが重要である。
森町に不足しているのは、商売の視点ではないかと考えている。例えば、公園を整備する場合でも、公園を整備して終わりにするのではなく、その公園を活用して何を実現するのかまで考える必要がある。島田市では、公園の一角に民間事業者が小屋を整備し、チャレンジショップとして活用した事例がある。そこで出店した方が、その後、町内に店舗を構えるといった展開も見られた。
文化財についても同様であり、保存するだけでは維持が難しい時代となっている。国の方針も変化しており、他自治体では、文化財を活用してレストランや店舗を整備するなど、民間と連携した取組も進められている。その意味では、活用されていない貴重な資源が、まだ数多く存在していると考えている。
この計画を推進するに当たっては、施策そのものだけでなく、施策間の連携、地域との連携、民間との連携といった視点を、ぜひ盛り込んでいただきたい。
副会長から下水道について意見があった。私の理解が誤っていたら恐縮であるが、国はこれまで下水道処理区域を拡大してきた。しかし、処理区域を拡大したものの、実際に整備を進めることが難しい地域も生じている。そのため、近年では計画区域を見直し、一部を区域から外すという考え方も示されている。その意味では、下水道処理区域を見直し、より効率的な形にしていくという方向性もあると考える。一方で、この計画に記載されている内容は、既に整備された区域について接続を促進し、水洗化率を向上させていこうというものであり、その考え方自体は正しいと思う。ただし、指摘のあった処理区域そのものを見直すという視点は、計画の中に見当たらない。そのため、この点についても検討していただきたい。

事務局：　下水道については、管路は末端まで整備されており、途中で当初計画を見直して区域を縮小した上で、昨年度に完了している。

副会長：　管路が整備済みであることは理解しているが、整備したにもかかわらず、接続率が 50%から 60%程度の現状がある。今後、下水道事業に係る費用負担が増加する中で、町としても無駄のない運営を行う必要がある。現在の取組内容が間違っていると考えていないが、周知方法も含め、整備した下水道が十分に活用されるよう工夫していただきたい。また、できる限り無駄が生じないよう、事業を進めていただきたい。

事務局：　取組では「下水道戦略の改定」が位置付けられており、その中で新たな計画を策定することとなっている。こうした点も踏まえ、今後、下水道事業については新たな戦略や計画が策定されていくものと考えているので、ご理解いただきたい。

会　長：　第 6 回審議会については答申となる。答申のために委員の皆様に集まっていただく必要はないと考えており、前回の基本構想の答申についても、会長のみで対応した。
次回までに計画案を概ね取りまとめ、その後、パブリックコメントや議会への説明を経て、最終的に修正したものを答申する流れになると思う。前回同様に、答申のため

に審議会を開催する必要はないため、今回もそのような形で進めさせていただきたいと考えているが、よろしいか。

各委員：　（同意）

会　長：　それでは、そのように進める。

事務局：　先程の会長からの話について、スケジュールの部分は資料を修正させていただき、全体資料と併せてホームページで公開する。

４　報告事項
（1）物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金（令和７年度）の充当事業について
・報告事項(1)について事務局より説明

５　その他

６　閉会

以上